

多高通信

2016年(平成28年)3月18日 金曜日

宮城県多賀城高等学校
多賀城市笠神2-17-1
発行 防災教育担当

平成27年度 防災教育特集号

小泉政務官来校!

復興庁も本校の防災教育活動に期待



小泉進次郎政務官と意見交換を行った生徒

7月9日午前、小泉進次郎・復興大臣政務官兼内閣府大臣政務官(当時)が来校し、阿部拓人生徒会長はじめ代表生徒と交流した。はじめに生徒から本校の防災・減災活動の取組についてや、国連防災世界会議、多賀城減災市民会議の様子など、地域と密着した活動の様子を説明した。政務官は、特に津波標識設置活動の様子を熱心に聞き入り、活動の苦労話などを生徒に質問していた。また、震災前とその後自身の行動がどう変わったかなど、生徒一人ひとりと懇談を交えながら意見交換を行った。

交流の最後に政務官からは、開設される「災害科学科」への期待を述べられた。高校生をはじめとした若い力が復興の本当の力となり、将来の社会の核となっていくんだ」という力強い言葉をかけていただいた。その後、いくつかの教室の授業を参観し、受験を控えている3年生にエールを送るなど、生徒一人ひとりに対し真剣かつ和やかに接していただいた。



平成28年度開設される災害科学科のカリキュラムは、普通科の科目をベースに地学や生物、地理や情報、保健、家庭科などの科目を防災・減災という視点から学習する内容になっており、27年度は普通科の各授業や課外授業の中で先行授業が行われた。

9月27、28日の2日間、第1学年の希望者33名が茨城県つくば市の「産業技術総合研究所地質標本館」、「JAXA(宇宙航空研究開発機構)筑波宇宙センター」、「防災科学技術研究所」を訪れ研修を行った。「つくば研修」2年目となる今年には、「科学的な視点で自然災害を学び、災害から命や暮らしを守る力を身につけること」を目的とし、「自然災害を科学し、行動する」高校生にのびのびと



ペットボトルでの地震計製作

つくば研修は2年目
各研究施設での実習・実験

つくば研修は2年目となる今年には、「科学的な視点で自然災害を学び、災害から命や暮らしを守る力を身につけること」を目的とし、「自然災害を科学し、行動する」高校生にのびのびと

平成28年度開設される災害科学科のカリキュラムは、普通科の科目をベースに地学や生物、地理や情報、保健、家庭科などの科目を防災・減災という視点から学習する内容になっており、27年度は普通科の各授業や課外授業の中で先行授業が行われた。



大型耐震実験施設の見学



JAXA筑波宇宙センター見学

JAXA連携授業
宇宙から防災を考える

7月14日、JAXA(宇宙航空研究開発機構)との連携で、大木真人開発員を講師に迎え、人工衛星の画像処理とその利用についての授業があった。

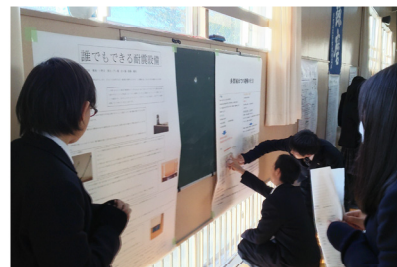
7月14日、JAXA(宇宙航空研究開発機構)との連携で、大木真人開発員を講師に迎え、人工衛星の画像処理とその利用についての授業があった。



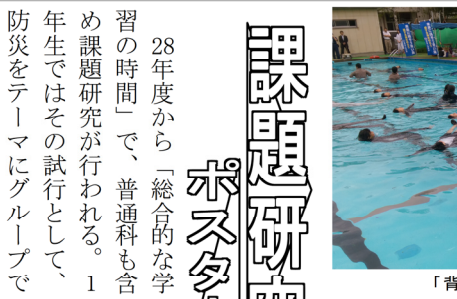
人工衛星画像を用いたJAXAとの連携授業

課題研究
ポスターセッション

28年度から「総合的な学習の時間」で、普通科も含め課題研究が行われる。1年生ではその試行として、防災をテーマにグループで研究し、まとめたものを発表する「ポスターセッション」が行われた。生徒は「災害ボランティアについて」「震災風化防止のための取り組み」「津波発生時のメカニズム」など様々なテーマで自分たちの研究テーマについて発表した。



自分たちの研究を発表するポスターセッション



「背浮き」の練習



AED実習

平成28年度開設 災害科学科

普通科で先行授業スタート!

7月19日、20日の2日間、海洋探査船「しんかい6500」などを保有するJAMSTEC(海洋研究開発機構)から講師を招き、2年生の希望生徒23名が塩竈市浦戸諸島野々島で野外実習を行った。講師の小俣珠乃研究員からプレートテクトニクスの理論と世界に広がる造山帯に関する説明を受けたあと、iPadを駆使しそれぞれの地点で露頭(地層)の観察、走向傾斜の計測や記録を行った。また、9月26日からの2日間、牡鹿半島で東北大学学術資源研究公開センターの西弘嗣先生と高嶋礼詩先生を講師に招き、「野外観察を通じて地学の調査法や考案方、私たちが取り組む地球環境を理解する」というテーマで調査・研究を行った。両実習とも、翌日は学校に戻り、測定した走向傾斜を地図上にプロットする作業や地質構造の確認を地球の地殻変動や海水準変動などについて考察し、研究成果を学会等で発表した。

牡鹿半島等での野外実習 JAMSTEC・東北大学 連携授業



牡鹿半島鮎川港付近での地層調査



ワークショップの様子

東北工業大学ライフデザイン学部から菊地良寛先生、中島敏先生、伊藤美由紀先生を招き、家庭科の授業において、「安全な住まいのデザイン」「身近な家具の安全点検」「災害時に備える看護学」について実習形式の講義が行われた。10分の1サイズの振動模型を用いた実験ではグループ毎に作成した「突っ張り棒」で模型の本棚を固定し、その効果を確かめた。

東北学院大学の和田正春先生とその学生を招きワークショップを行った。地域構想を学ぶ学生がファシリテーターとなり「なぜ避難は避難計画通りに進まないのか」「近隣の助け合いは期待できるのか」「住民が望まない防波堤が造られるのはなぜか」などのテーマで話し合いを行った。対話を通して「合意形成づくり」を目的に、コミュニケーション能力を高める試みが行われた。このような能力は、新大入試等でも求められる。今後、「総合的な学習の時間」で行われる。



住宅模型をもとに説明する菊地先生

海上保安庁・消防

水難事故防止・救急救命講習

8月26日、海上保安庁宮城海上保安部の潜水士15名を招き、「海上保安庁水難事故防止講習」が行われた。靴を履き、着衣のまま、力を抜いて浮き続ける「背浮き」を練習。水中に転落したときは、体力の消耗を防ぐため浮いたまま待つのが鉄則、と説明があった。空のペットボトルを浮きにして「背浮き」では、簡単に浮かぶことができた、驚きの声も上がった。最後に、いわゆる「海猿」と呼ばれる特殊救難隊員が水難救助のデモンストレーションを披露し、生徒たちから拍手を浴びていた。講習後隊員からは、海上保安大学校に進学して、海上保安官を目指してほしいと期待を込められた。

また、1月26日には多賀城消防署の署員を招き救急救命法の授業を行った。人工呼吸の方法やAEDの使用法など説明を受けた後、グループ毎に実際の場面を想定した実習を行った。この授業の内容は28年度から「くらしと安全」の中で行われる。



「背浮き」の練習



消防署員の説明



AED実習